

日本最大の 코리아タウンとツーリズム

코리아タウン(大阪市生野区)

ナビゲーター
特定非営利活動法人 코리아 NGOセンター
代表理事

宋 悟
Song Oh



さまざまな食材が並ぶ食料店に立ち寄る修学旅行生。キムチだけでなく、ここでは手に入らない食材もまだ多い



物珍しい品が並ぶ 코리아タウンの商店街で土産物を買う修学旅行生などを対象に、新しい商品の販売も行われるようになってきた

「코리아タウン」で フィールドワークを実施

現在、区民の四人に一人が在日 코리아人という大阪市生野区にある通称「코리아タウン」。在日 코리아人が代を重ねるにつれて、食の日本化が進んだこともあり、年々客足が減りつつあった。そこで、故郷の門を再現するなどハード面の整備を進めたが、あまり効果がなく、そんな状況を打破するため、今回のナビゲーター役である 코리아 NGOセンターの宋悟代表理事たちは、体験学習の場としての修学旅行生の受け入れをはじめ

た。

もともと同センターは、在日 코리아人の民族的アイデンティティ確立や在日外国人の人権保障などを目的としている組織だが、「数年前から、修学旅行生の人権研修を兼ねたフィールドワークの場として少しずつ 코리아タウンの見学を引き受けていましたが、それが人気を呼び、三年前に本格的な受け入れができるような場づくりや体制づくりを整備しました」。

今回取材した日も、熊本から来た高校生たちが戦時期の日本と 코리아の関係を分かりやすく説明しながら街を歩く一方、在日外国人の問題などを説明。この日は底冷えする寒い日だったが、宋代表理事たちの話を真剣に聞く高校生の姿がとても印象的だった。「在日外国人の人権は、日本社会の問題です。少しでも関心を持つ機会になってくれればと思って活動しています」。

最初は、物見湯山でやってくる修学旅行生を受け入れることに商店街は、必ずしも歓迎していなかったという。しかし、年に八〇〇〇人を越える若者が訪れ、また話題にもなることで、商店街にも活気が生まれ、少しずつ状況は変わってきた。

こうした「코리아タウン」の試みは、その地域が持つ歴史性を活かした新たなツーリズムとして各方面から注目を集めている。今後、韓国からの修学旅行生も受け入れたいという宋代表理事の夢が叶えば、海を渡ってそれが大阪の知名度を上げることにもつながることは間違いない。



コリアの伝統的な門が再現されたコリアタウンの入口



昼食もとれる「班家食工房」は3年前に造られた施設。ここでは、キムチ漬けの教室なども開かれる



コリアタウンに隣接する「大阪朝鮮第四初級学校」で日本の学校との違いの説明を受ける、熊本の修学旅行生

特定非営利活動法人コリアNGOセンター

【連絡先】

〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-17
さんくすホール2F

TEL 06(6978)7676

FAX 06(6978)7686

URL <http://korea-ngo.org/>



熊本から訪れた修学旅行生を案内する、今回のナビゲーターの宋悟さん



“韓流ブーム”に応じて、韓国のスターグッズを販売する店もオープン